

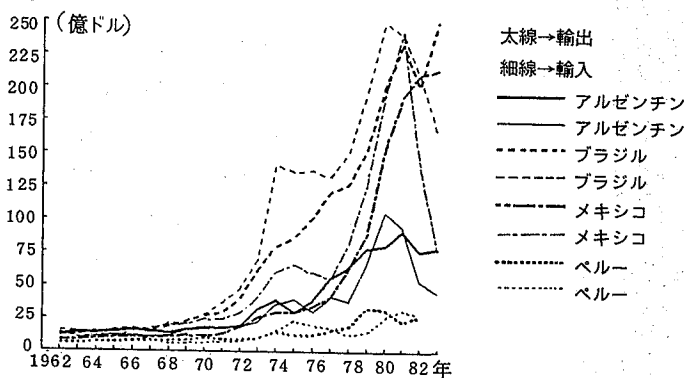
ラテンアメリカの貿易構造

相原好江

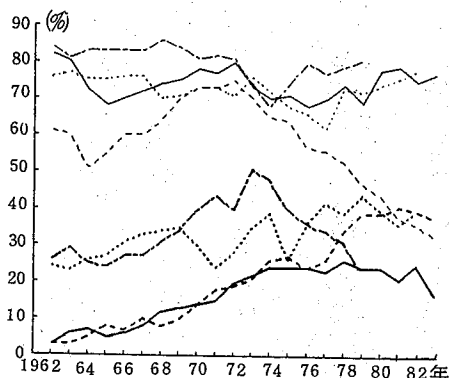
(統計部)

本資料は、過去20年間のラテンアメリカにおける貿易構造の変化を、アジア経済研究所所蔵の「国際貿易統計磁気テープ」のデータを使用しとりまとめたものである。主としてメキシコ、ブラジル、アルゼンチンを対象としているが、その他に、ペルー、ジャマイカをつけ加えた。データの制約上、各項目はこれら全ての国をカバーしていない。対象期間は、主に1962～83年の期間をとり、標準国際貿易商品分類(SITC, 10部門)によって輸出入構成の変化をみた。なお、輸出入の相手地域としては、日本、米国、ヨーロッパをとりあげた。

輸出および輸入額の推移 (1962～83年)

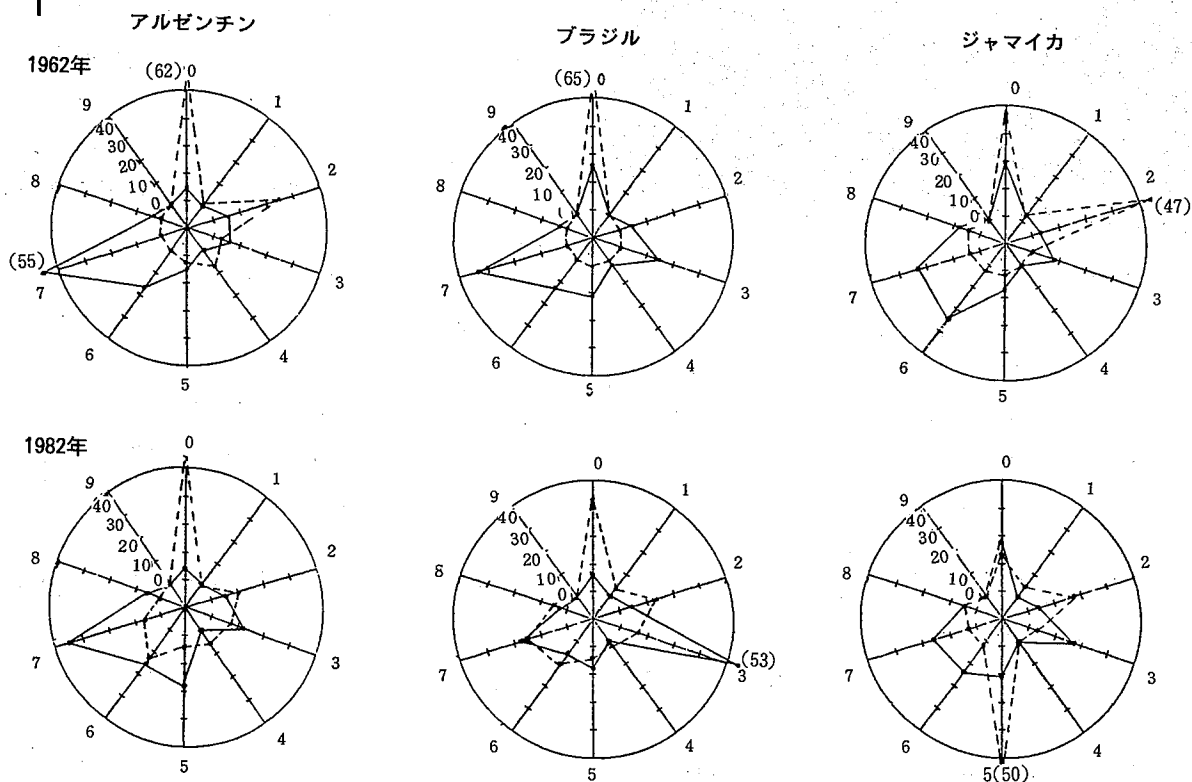


輸出および輸入額における工業製品*の比率 (1962～83年)



* SITCにおける第5部から第9部の合計

SITC, 10部門による輸出入構成の変化 (%)



工業製品の地域別依存度の推移 (1962~83年)

